

「ようだ」と「らしい」の韓日對照研究

金 惠 娟*

目 次

1. はじめに
 2. 研究方法
 3. <疑問1>の檢証と考察
 4. <疑問2>の檢証と考察
 5. まとめ及び今後の課題
-

1. はじめに

「ようだ」と「らしい」の韓日對照研究は、主に「判斷根據の質の違い」と「命題に對する話者の態度」の二つの観点から分析が行われてきた。尙美淑(2001)は「判斷根據の質の違い」の観点から、判斷根據が直接的であっても話者の感じ、經驗などの主観的な場合には、「ようだ」と「것 같다」「듯하다」が用いられるが、判斷根據が直接的であっても話者の觀察や推定などのような客観的な場合には、「ようだ」「らしい」「것 같다」「듯하다」「모양이다」「가보다」が用いられると述べた。それに對し、判斷根據が伝聞、噂などの間接的な場合には、「らしい」と「모양이다」「가보다」が用いられると述べている。さらに、尙(2001)は、「命題に對する話者の態度」の観点から、「判斷根據の質の違い」の観点からは「らしい」が用いられるところに「ようだ」が、また「ようだ」が用いられるところに「らしい」が用いられる場合があると述べている。この場合、「ようだ」を使うことで話者の判斷という感じを強く感じると述べ、「らしい」を使うことで他人のことを言っているような感じを受けると述べている。また、金東郁(1998)は「命題に對する話者の態度」の観点から、「ようだ」と「것 같다」「듯하다」は、話し手が自分の判斷及び判斷が示す命題の内容に對して主体的な叙述態度を取り、話し手固有の判斷であるという意識があるため、判斷の最終的な責任が話し手にあることを暗黙的に認める態度を表すと述べている。それに對し、「らしい」と「모양이다」「가보다」は、話し手が自分の判斷及び判斷が示す命題内容に對し客観的な

* 筑波大學博士課程人文社會科學研究科文芸言語專攻

叙述態度で第3者的態度を取るため、判断の最終的な責任が話し手にないことを暗にほめかす態度を表すと述べた。また、高銀振(1998)は「命題に対する話者の態度」の観点から、話者が命題に直接的な影響を受けると判断した場合または命題に對し關心がある場合には、「것같다」「듯하다」が用いられるのに對し、話者が命題に直接的な影響を受けないと判断した場合または、關心がない場合には、「모양이다」「가보다」が用いられると述べた。日本語においては、寺村(1984)、益岡(1991)などが「判断根據の質の違い」の観点から「ようだ」と「らしい」の違いを述べている。寺村(1984)、益岡(1991)は判断根據が直接的である場合には「ようだ」が用いられるのに對し、判断根據が間接的な場合には「らしい」が用いられると述べている。また、「命題に対する話者の態度」の観点から、早津(1988)は事態に対する發話主体に心的態度として2種類があると述べた。一つは、判断の對象とする事態や判断の内容を自分に近いものとして捉えようとする態度(“ひきよせ”の態度)と、もう一つは、判断の對象とする事態や判断の内容を自分から一定の距離をおいて捉えようとする態度(“ひきはなし”の態度)であると述べた。本稿では、金(1998)の命題に対する話者の責任感の違いや高(1998)の命題に対する話者の影響力や關心度の違いによる分析は、早津(1998)の“ひきよせ”と“ひきはなし”の下位概念であると考えられる。なぜならば、話者が事態(命題)に對し“ひきよせ”の態度を取る場合というのは、話者が事態(命題)に責任感を感じる場合や命題内容に話者が何らかの影響を受ける場合や關心がある場合であるからである。また、話者が事態(命題)に對し“ひきはなし”の態度を取る場合というのは、話者が事態(命題)に責任感を感じず、何らかの影響も受けず、また關心がない場合であるからである。早津(1988)の“ひきよせ”と“ひきはなし”では、話者が“ひきよせ”と“ひきはなし”を起こす理由、事情などについてはそれほど言及されていないが、本稿では、その理由や事情などを含めた“ひきよせ”、“ひきはなし”という意味で、早津(1988)の“ひきよせ”、“ひきはなし”とは區別し、何らかの理由で“ひきよせ”、“ひきはなし”の態度を取る場合を‘命題に對し近い態度を取る’という意味で‘近’と呼び、何らかの理由で“ひきはなし”の態度を取る場合を‘命題に對し遠い態度を取る’という意味で‘遠’と呼ぶことにする。本稿の‘近’‘遠’の概念はそのような態度(‘近’が‘遠’)を取る背景を提示している点で早津(1988)の“ひきよせ”、“ひきはなし”とは區別される。

以上、「判断根據の質の違い」と「命題に対する話者の態度」の観点から先行研究を述べてきたが、以上の先行研究をまとめると、判断根據が直接的な場合と話者が命題を‘近’の態度で捉える場合には、「ようだ」と「것같다」「듯하다」が用いられるのに對し、判断根據が間接的な場合と話者が命題を‘遠’の態度で捉える場合には、「らしい」と「모양이다」「가보다」が用いられるということになる。一般的に考えて判断根據が直接的な場合には、話者は自分が直接得た根據に基づき推量判断するため、‘近’の態度を取りやすいと思われる。逆に、判断根據が間接的な場合には、話者は自分からではなく他者から得た根據に基づき推量判断するため、‘遠’の態度を取りやすいと思われる。そういう意味で、本稿では、判断根據が直接的で話者が命題に對し

‘近’の態度を取る場合または、判断根拠が間接的で話者が命題に対し‘遠’の態度を取る場合、二つの観点は同じ方向であると考えられる。しかし、当然のことながら、話者は判断根拠が直接的であっても何らかの理由によって‘遠’の態度を取る場合もあり得る。同様に、話者は判断根拠が間接的であっても何らかの理由によって‘近’の態度を取る場合もあり得る。本稿では、この場合、二つの観点は同じ方向でないと考える。つまり、発話場面において、「判断根拠の質の違い」と「命題に対する話者の態度」の二つの観点は同じ方向の場合もあれば、そうでない場合もある。しかし、上で上げた先行研究では二つの観点が同じ方向の場合については言及されているが、何らかの理由で二つの観点が同じでない場合については言及されていない。言い換えれば、判断根拠が直接的で‘遠’の態度を取る場合または、判断根拠が間接的で‘近’の態度を取る場合、どのような推量判断形式が用いられるのかについては言及されていない。以下の(1)(2)を見られたい。

- (1) a 晝休みに清掃會社の方に電話を入れてみると、遊佐は何か事情があって休みを取ったよ
うだ/らしい。 「待っている男」
 b 점심시간에 청소회사쪽에 전화를 걸어보니, 유사는 뭔가 사정이 있어서 휴가를 낸
것같다/듯하다/모양이다/가보다.
- (2) a 箱は軽かった。「軽いところ見ると、金も入っていないえようだな/らしいな。 「動物」
 b 상자는 가벼웠다 '가벼운 걸 보니, 돈도 들어 있지 않은 것같군/듯하군/모양이군/가
 보군.'

(1)は「晝休みに清掃會社の方に電話を入れてみると」から分かるように判断根拠は電話で聞いた内容であり、判断根拠は間接的であるが、「らしい」だけでなく、「ようだ」も用いられ、韓国語においても「모양이다」「가보다」だけでなく、「것같다」「듯하다」も用いられる。また、(2)は話者の感覺(軽かった)に基づく推量判断であり、判断根拠は直接的であるが、「ようだ」だけでなく「らしい」も用いられ、韓国語においても「것같다」「듯하다」だけでなく、「모양이다」「가보다」も用いられる。これは、判断根拠が直接的であっても何らかの理由で話者は命題に対し‘遠’の態度も取りうるからであり、また判断根拠が間接的であっても何らかの理由で話者は命題に対し‘近’の態度も取りうるからである。(1)は判断根拠が間接的であるが、遊佐の休みによって遊佐の仕事まで話者に回ってくるなどの何らかの影響を受ける場合、話者は命題に対し‘近’の態度も取りうる。また、(2)は判断根拠が直接的であるが、箱にお金が入っていない状況に話者が何らかの影響も受けないと判断した場合は‘遠’の態度も取りうる。つまり、(1)(2)は二つの観点が同じ方向でない場合が含まれている例であり、この場合、推量判断形式の許容度に差はあるものの¹⁾複数の推量判断形式が許容される。(1)(2)から分かるように、「ようだ」「らしい」と

1) アンケートの結果、(1)の場合、「ようだ」は49人中22人、「らしい」は39人が自然であると答えた。また、

「것같다」「듯하다」「모양이다」「가보다」の推量判断形式の分析においては、「判断根據の質の違い」だけでなく、「命題に對する話者の態度」も同時に見ていく必要があると思われる。

また、表<1>を見られたい。<表1>は「ようだ」と「らしい」が使われている文を對譯文庫から取り出し、それが韓国語でどういう風に譯されているのかを調べ²⁾、まとめたものである。

<表1> 對譯文庫からみた韓日推量モダリティ形式の対応

韓国語 \ 日本語	ようだ	らしい
것같다	28/63(43%)	49/110(45%)
듯하다	17/63(27%)	21/110(19%)
모양이다	12/63(20%)	36/110(32%)
가보다	0/63(0%)	4/110(4%)
その他(듯싶다)	6/63(10%)	0/110(0%)

<表1>をみると、「ようだ」は「것같다」「듯하다」だけでなく、「모양이다」でも譯され、また「らしい」は「모양이다」「가보다」だけでなく、「것같다」「듯하다」でも譯されることが分かる。<表1>からも分かるように、金(1998)などで述べられているように、「ようだ」は「것같다」「듯하다」と、「らしい」は「모양이다」「가보다」と完全に對應しているのではないことが分かる。つまり、上述した先行研究のような、つまり「判断根據の質の違い」と「命題に對する話者の態度」の片方だけによる分析では、少なくとも以下の二つの疑問が残る。

まず、<疑問1>は、判断根據が直接的で話者が命題に對し「近」の態度を取る場合(兩觀點の方向が同じである場合)と判断根據が直接的で話者が命題に對し「遠」の態度を取る場合(兩觀點の方向が同じでない場合)とでは推量判断形式の許容度に差が見られるかどうかという疑問である。これは、判断根據が間接的で話者が命題に對し「遠」の態度を取る場合(兩觀點の方向が同じである場合)と判断根據が間接的で話者が命題に對し「近」の態度を取る場合(兩觀點の方向が同じでない)においても同様のことがいえる。また、<疑問2>は二つの觀點に優先順位があるかどうかについての疑問である。つまり、判断根據が直接的な場合で話者が命題に對し「遠」の態度を取る場合または、判断根據が間接的で話者が命題に對し「近」の態度を取る場合のように兩觀點の方向が同じでない場合、韓日兩言語の推量判断形式はどちらの觀點によってより優先的に選擇されるのかという疑問である。さらに、もし優先順位があるとしたら韓日兩言

「것같다」「듯하다」「모양이다」「가보다」の順に49人中27人、20人、36人、6人であった。(2)の場合、「ようだ」は50人中48人、「らしい」は12人が自然であると答えた。また、「것같다」「듯하다」「모양이다」「가보다」は順に49人中39人、18人、21人、18人であった。

2) 「ようだ」「らしい」が使われている表現は、韓国語ではいくつかの翻譯が可能であるが、<表1>は對譯文庫で譯されている韓国語のみを数えたものである。實際は複数の翻譯が可能であると思われる。

語において違いがあるのかどうかについての疑問である。そこで、本稿ではアンケートを実施し、二つの疑問を明らかにすることを目的とする。発話場面においては、様々な状況が考えられ、話者はその様々な状況を話者なりに解釈し、自分の置かれている状況を様々な表現形式の中で、自分にとって一番適切だと思う表現形式を選んで発話する。ここで「様々な状況を話者なりに解釈する」というのは、本稿の立場から説明すると、話者が自分の置かれている状況の判断根拠をどのように解釈し、どのような態度で命題を捉えるかということである。同じ状況でも、その状況を捉える話者によって状況の捉え方も違って来るからである。つまり、同じ状況でも話者によって違う推量判断形式を用いるということである。そこで、本稿では大勢の人にアンケートを実施し、推量判断形式の選択傾向を分析する。そして、どのような場合にどのような推量判断形式が一番合理的に用いられるのかを考察する。つまり、本稿では、コンテキストを読めば「判断根拠の質の違い」と「命題に対する話者の態度」の二つの観点を含んでいると判断される内容のアンケートを実施することによって、どのような場合にどのような推量判断形式がよく用いられるのかを分析する。その分析結果から、「ようだ」「らしい」「것 같다」「듯하다」「모양이다」「가보다」の意味特徴を明らかにする。アンケートの詳細については次章で述べる。

2. 研究方法

2.1 アンケートの目的

本稿で実施したアンケートは、上述した〈疑問1〉と〈疑問2〉の分析及び考察を目的とする。「判断根拠の質の違い」と「命題に対する話者の態度」の二つの観点と同じ方向であると判断される場合と同じ方向でないと判断される場合の推量判断形式の選択傾向を分析し、二つの観点の関連性について考察する。ここで「二つの観点の関連性」とは、二つの観点がそれぞれモダリティ形式の選択において「互いに影響し合う」ということである。もし、同じ方向の場合の推量判断形式の選択傾向が同じ方向でない場合の推量判断形式の選択傾向に比べ許容度が著しく高かったり低かったりするのであれば、二つの観点は互いに影響し合っているといえる(〈疑問1〉)。また、両観点が同じ方向でないと判断される場合、どちらの観点がよりそれぞれの推量判断形式の選択の決定に影響を与えるのかを調べ、二つの観点到優先順位があるとしたら韓日両言語にその差があるのかどうかについて考察する。もし、「判断根拠の質の違い」の観点からの分析結果が「命題に対する話者の態度」の観点到比べ、推量判断形式の選択の差が顕著であれば、その推量判断形式は「判断根拠の質の違い」によってより優先的に選択されるといえる(〈疑問

問2>)。〈疑問1〉〈疑問2〉とアンケートの目的との関連については次章で詳しく述べる。

2.2 アンケートの内容

本稿では、日韓対訳文庫から「ようだ」「らしい」「것같다」「듯하다」「모양이다」「가보다」の例を探し出し、「判断根拠の質の違い」と「命題に対する話者の態度」の両観点を含んでいると思われる文章を35個³⁾選択し、アンケート調査を行った。アンケートの例文は尙(2001)、金(1998)、高(1998)、寺村(1984)、早津(1988)などを踏まえて、「判断根拠の質の違い」の観点は、判断根拠が直接的である場合を直接的かつ主観的な場合と直接的かつ客観的な場合に分け、間接的である場合を伝聞の意味が弱い間接的な場合と伝聞の意味が強い間接的な場合に分けた。また、「命題に対する話者の態度」の観点は、話者が命題に対し「近」の態度を取りやすい場合と「遠」の態度を取りやすい場合に分けた。すると、二つの観点を含んでいると考えられるアンケートの例文は以下のように八つに分類される。

- ①判断根拠が直接的かつ主観的で命題に対し「近」の態度を取りやすい場合（以下、「直・主・「近>遠」と呼ぶ）
- ②判断根拠が直接的かつ主観的で命題に対し「近」の態度とも「遠」の態度とも取れる場合（以下、「直・主・「近/遠」と呼ぶ）
- ③判断根拠が直接的かつ客観的で命題に対し「近」の態度を取りやすい場合（以下、「直・客・「近>遠」と呼ぶ）
- ④判断根拠が直接的かつ客観的で命題に対し「近」の態度とも「遠」の態度とも取れる場合（以下、「直・客・「近/遠」と呼ぶ）
- ⑤判断根拠が間接的かつ伝聞の意味が弱く、命題に対し「近」の態度を取りやすい場合（以下、「間・伝聞弱・「近>遠」と呼ぶ）
- ⑥判断根拠が間接的かつ伝聞の意味が弱く、命題に対し「近」の態度とも「遠」の態度とも取れる場合（以下、「間・伝聞弱・「近/遠」と呼ぶ）
- ⑦判断根拠が間接的かつ伝聞の意味が強く、命題に対し「近」の態度を取りやすい場合（以下、「間・伝聞強・「近>遠」と呼ぶ）
- ⑧判断根拠が間接的かつ伝聞の意味が強く、命題に対し「近」の態度とも「遠」の態度とも取れる場合（以下、「間・伝聞強・「近/遠」と呼ぶ）

上述したように、本稿で実施したアンケートの例文は「判断根拠の質の違い」と「命題に対す

3) 紙幅の都合上、全ての例文は提示しない。

る話者の態度」の二つの観点を含んでいると思われる例文である。アンケート例文の「判断根拠の質の違い」と「命題に対する話者の態度」の判定は筆者によるものであり、筆者はコンテキストを読めば、一般的にそういう風に判断されると思われる例文をアンケートの例として選んだ。アンケートの項目を筆者が設定しているので項目に対する客観性が懸念される部分もあるかもしれない。しかし、アンケート分析結果、筆者が設定した項目別の推量判断形式の選択に一定の傾向が見られれば、それは被験者の大体も筆者と同じような判定をしたということになる。つまり、本稿で実施したアンケートは、筆者が設定した分類別の推量判断形式の選択傾向を調べるための目的と同時に筆者が設定した例文の判定を被験者に聞くという目的もあるのである。

以下では、アンケート例文をそういう風に判定した理由についてアンケートの例⁴⁾を示しながら説明する。まず、判断根拠が直接的であるということは、話者から得た根拠であり、間接的であるということは他者から得た根拠である。以下、例文の太字は筆者が例文をそのように分類した判定の根拠を表す。

- (3) 「**でも私は手袋…**」と言いかけて晴美は大きく身震いした。きっと、自分が重大な失言をしたことに気がついたのだろう。「今度こそ君も逃げるわけにはいかないようだね/らしいね。
- (4) **工場の被害調査班のメンバーに聞くと**、瞬間最大電流は、400キロアンペアもあったようだ/らしい。

筆者は(3)の判断根拠は直接的であり、(4)は間接的であると判断した。(3)(4)の太字のところがそのように判断した根拠となっている。(3)は話者が相手の発話や様子から、つまり話者の視覚で捉えた根拠を基にして推量判断しているので、(3)の判断根拠は直接的である。それに對し、(4)は太字の「工場の被害調査班のメンバーに聞くと」から分かるように推量判断の根拠は他者からのものであるため、(4)の判断根拠は間接的である。

さらに、判断根拠が直接的かつ主観的であるということは、話者の感じや経験などが判断根拠となっている場合であり、判断根拠が直接的かつ客観的であるということは、話者の視覚などを通じた観察などから得た根拠である。

- (5) 積み上げられたまま、私はまた移動しているようだった/らしかった⁵⁾。切れ目のない細かな

4) アンケートでは、太字は使っていない。推量判断形式に下線を引いているだけである。
5) 一般的に「モダリティ」は、「発話時(現在時)における話し手の心的態度と定義されるが、判断時が過去の場合には、判断時が発話時(現在時)に比べモダリティ性は落ちるが、「過去時における話し手の心的態度」という意味で、本稿では過去時の話者の心的態度の場合も研究対象とした。すなわち、発話時の「ようだ」「らしい」だけでなく、過去時の「ようだった」「らしかった」も研究対象とした。判断時の時制とモダリティ性については別稿で述べたい。

振動と時々やってくるゆっくりとした揺れの中で、私は満足しきっていた。

- (6) 齋場の側の窓に、白いハンケチでしきりと涙を拭いている十七・八の少女を私は見た。拭いても拭いても涙が溢れてくるようだ/らしい。

(5)と(6)の判断根拠の出所は話者自身から得られたという点で、判断根拠は直接的である。しかし、(5)の判断根拠は話者自身の体の外から、言い換えれば視覚などを通じた外の事態からではなく、太字から分かるように話者の感じから得た根拠であり、判断根拠は主観的である。それに對し、(6)の判断根拠は太字の「私は見た」から分かるように、判断根拠は話者の視覚を通じて捉えた外の事態である。つまり、(6)の判断根拠は話者の視覚を通じて外の事態を捉えており、判断根拠は客観的である。

また、判断根拠が間接的で伝聞の意味が強いというのは、「～によると」「という」などのように判断根拠の出所が明らかに他者のものであり、話者はただの伝え聞きとして判断根拠を扱う場合である。それに對し、判断根拠が間接的で伝聞の意味が弱いというのは、判断根拠は他者のものであるが、判断根拠を話者の判断が入っているものとして扱う場合である。

- (7) **工場の被害調査班のメンバーに聞くと、瞬間最大電流は、400キロアンペアもあったよう**
だ/らしい。 (再掲(4))

- (8) 「でもなんか収穫はあったかね。」「うん。殺された男のところへは、時に妙な女がやってきたらしい。(省略)警部は、額の縦皺を寄せながら言った。「**それでは、**今後もまた幸運に恵まれて警察をリードできたようだな/らしいな。」

(7)(8)の判断根拠は、他者からの情報であり、判断根拠は間接的である。しかし、(7)の話者は他者情報をそのまま受け入れているのに對し、(8)では太字の「それでは」から分かるように、他者から得た情報を話者が自分なりに解釈し推量判断しているという点で異なる。つまり、(7)は判断根拠である他者情報をそのまま受け入れているので、判断根拠は伝聞の意味が強い間接的根拠である。それに對し、(8)は判断根拠である他者情報をそのまま受け入れず話者なりの解釈を入れて受け入れているので(8)の判断根拠は伝聞の意味が弱い間接的根拠である。

以上、「判断根拠の質の違い」の観点で用いる用語について説明したが、次は「命題に對する話者の態度」の観点で用いる用語について説明する。本稿では「命題に對する話者の態度」を話者が命題に對し「近」の態度を取りやすい場合と「近」の態度とも「遠」の態度とも取れる場合の二つに分け、それぞれ「近>遠」、「近/遠6」と表記している。話者が命題に對し、「近>遠」の態度を取

6) 命題に對し話者が近の態度を取りやすいと判断されるのは、一般的に職業関係や話者と相手との間柄によって判断されやすいが、「遠」の態度を取りやすいと判断されるのは文脈だけでは判断しにくい場合が多いと思われる。そのため、本稿では「命題に對する話者の態度」を「近」の態度を取りやすい場合と「近」の態度とも「遠」の態度とも取れる場合の二つに分けた。「遠」の態度を取りやすいと思われる文脈については今後の

る場合とは、話者が命題内容から何らかの影響を受けると認識した場合または、話者が命題に関心がある場合などである。それに對し、‘近/遠’の態度を取る場合とは、話者が置かれている状況によって話者が命題に對し‘近’の態度とも‘遠’の態度とも取れるような場合である。以下では、アンケートの例文を用い、筆者がアンケートの例文を‘近>遠’または、‘近/遠’と判定した根拠について説明する。

- (9) 「(省略) 麻薬密輸の件では、彼女も一役買っていたのではないかと思われる節がある。それを、他の戀人ができて逃げ出したらしいから、彼らから裏切り者と見なされて狙われたとしても無理はないかもしれん。」「その戀人はどうしたのだ」「それもやつらの手にかかって死んでしまったようだよ/らしいよ。」
- (10) 家の中では、ちょうど告別式の讀経が終わったところのようだ/らしい。生垣の門から猫の額ほどの弔問客用の通路が作られていて、遅れて到着した會葬者が2、3人焼香の順番を待っていた。

筆者は、(9)の「命題に對する話者の態度」は‘近>遠’であり、(10)は‘近/遠’であると判断した。(9)は警察同士の事件に關する會話であり、警察官である話者は事件の内容(命題)に對し、職業柄上‘近’の態度を取りやすいと思われるからである。それは職業柄上、事件の内容(命題)に話者が多大な影響を受けるからである。それに對し、(10)の話者は告別式の讀経が終わった事態(命題)に對し‘近’の態度とも‘遠’の態度とも取れる。もし話者が告別式に参加する参列者であれば、話者は‘近’の態度も取れるが、もし話者がたまたま告別式をやっている家の前を通りかかっていた人であれば、話者は命題に對し‘遠’の態度も取れると思われるからである。本稿では、‘近’の態度を取るあるいは‘遠’の態度を取るという表現を使わず、‘近’の態度を取りやすい、‘遠’の態度を取りやすいという表現を使っている。これは、一般的にあるいは常識的に話者の職業や置かれた状況によって命題に對する態度を予測することはできてもそれはそういう立場を取りやすいあるいは取りにくいという可能性の問題であるからである。そういう意味で本稿では、‘近’の態度を取りやすい場合を‘近>遠’と表記し、‘近’の態度とも‘遠’の態度とも取れる場合を‘近/遠’と表記している。

2.3 アンケートの對象及びアンケート方法

韓國語の場合は권선高校の2年生750人を、日本語の場合は筑波大學大學生50人を被驗者

課題としたい。

- 7) 被驗者が高校性で類似語の意味分化の判定能力が懸念される部分もあるかもしれないが、권선高校は경기도 수원の進學名門校で大學生との差はそれほどないと筆者は判断した。

とした。また、アンケートの方法としては韓国人には韓国語で書かれているアンケート用紙を、日本人には日本語で書かれたアンケート用紙を渡し、許容できると思われる表現形式に丸をつけてもらい、この場合、許容できるのであれば丸はいくつつけてもよいとした。また、もし可能であれば丸をつけてもらった表現形式の中でより自然であると思われる表現形式に星マークをつけてもらった⁸⁾。

3. <疑問1>の検証と考察

3.1 検証方法

<疑問1>は本稿で取り上げている兩観点が同じ方向の場合と同じでない場合、推量判断形式の許容度に差があるかどうかという疑問である。そこで本稿では、判断根拠と命題に對する話者の態度が同じ方向である場合(つまり、判断根拠が直接的で‘近>遠’の態度を取る場合または、判断根拠が間接的で‘近/遠’の態度を取る場合)と兩観点の方向が同じでない場合(つまり、判断根拠が直接的で‘近/遠’の態度を取る場合または、判断根拠が間接的で‘近>遠’の態度を取る場合)のそれぞれ言語形式の選擇の傾向を探る。

3.2 分析及び考察

以下、(11)(12)のaは兩観点が同じ方向であると思われる例であり、bは同じ方向でないと思われる場合の例である。

- (11) a 「どうだ。その話を聞かせてくれないか?」「こういう場所ではどうですかしら?」さすがに晴美はちょっとためらっているようだった/らしかった。
- b 家の中では、ちょうど告別式の讀経が終わったところのようだ/らしい。生垣の門から額ほどの甲問客用の通路が作られていて、遅れて到着した會葬者が²⁾、3人焼香の順番を待っていた。(再掲(10))
- (12) a 工場の被害調査班のメンバーに聞くと、瞬間最大電流は、400 キロアンペアもあったようだ/らしい。(再掲(4))
- b (省略)Mさんは、少々派手な痴話げんかだな、という程度にしか受け取らなかったようだ/らしい。しかし、その時、もしかしたら信子は殺されたかもしれない、というわけで

8) アンケートの結果、星マークを付けた被験者は殆どいなかった。

す。(省略 私にとって気がかりなのは、その男の存在です。

(11)は話者の観察による判断であり、判断根拠は直接的かつ客観的であるが、(11)aは「その話を聞かせてくれないか?」から分かるように話者は相手に質問をしており、常識的に質問した相手の行動及び言葉に話者は関心を持つと思われる。そのため、(11)aの命題に対する話者の態度は‘近’の態度を取りやすく二つの観点は同じ方向である(直・客・‘近>遠’)。それに對し、(11)bは告別式の讀経が終わった事態に何らかの影響を受ける人であれば、‘近’の態度を取りやすく、何の影響も受けない人であれば、‘遠’の態度も取れると思われるので、(11)bは同じ方向でない場合も含まれている(直・客・‘近/遠’)。二つの観点が同じ方向である(11)aの場合、50人中「ようだ」は48人、「らしい」は21人で、「ようだ」を選択する傾向が見られた。それに對し、同じ方向でない場合も含まれている(11)bの場合、49人中、「ようだ」が34人、「らしい」が35人で、「ようだ」と「らしい」の選擇の差はそれほど見られなかった。また、(12)の判断根拠は「～に聞くと」「～という」から分かるように、判断根拠は伝聞の意味が強い間接的な根拠であるが、(12)aは話者が工場の関係者のように工場の事故で影響を受ける人であれば、‘近’の態度を取りやすく、何の影響も受けない人であれば、‘遠’の態度も取れると思われ、(12)aは兩観点が同じ方向であると判断される場合の例も含まれている(間・伝聞強・‘近/遠’)。それに對し、(12)bは「私にとって気がかりなのは」から分かるように、話者は命題に對し関心を持っており、話者は命題に對し‘近’の態度を取りやすいと思われる(間・伝聞強・‘近>遠’)。兩観点が同じ方向の場合の例が含まれている(12)aの場合、50人中、「ようだ」を選らんだ人は、わずか6人で、「らしい」は49人もあった。それに對し、兩観点の方向が同じでない(12)bの場合、50人中、「ようだ」を選択した人は、20人で、「らしい」を選択した人は41人で兩観点が同じである場合に比べ「ようだ」と「らしい」の選擇の差はそれほどなかった。(11)(12)から、兩観点が同じ方向である場合(a)はそうでない場合(b)に比べ、「ようだ」と「らしい」の選擇の差が著しいことが確認できる。これは、二つの観点が同じ方向である場合、相乗効果が起り、推量判断形式の選擇の差が著しくなったからである。また、兩観点が同じ方向でない場合(b)は、兩観点が同じである場合に比べ「ようだ」と「らしい」の選擇の差はそれほど見られないが、これは互いの観点が妨げになったからである。

次は韓國語の推量判断形式を見てみよう。

- (11) 'a “어때, 그 이야기를 들려줄 수 없겠나?” “이런 장소에서는 어떨까 몰라요?” 역시 하루미는 약간 망설이는 것같았다/듯했다/모양이었다/가보다.
 b 집안에서는 마침 고별식의 독경이 막 끝난 것같다/듯하다/모양이다/가보다. 생울타리 문에서 손바닥만한 조문객용 통로가 만들어져 있고, 늦게 도착한 문상객이 두세명 분향 차레를 기다리고 있었다.

(12) 'a 공장의 피해조사반 멤버에게 물어보니, 순간 최대 전류는 400킬로 암페어나 되었던 것같다/듯하다/모양이다/가보다.

b (생략) M씨는 좀 야단스러운 치정 싸움이구나 하는 정도로밖에 받아들이지 않았던 것같다/듯하다/모양이다/가보다. 그러나 그때 어찌면 노부코는 살해되었는지도 모른다는 이야기입니다. (생략) 나에게 있어서 마음에 걸리는 것은 그 사나이의 존재입니다.

既に(11)(12)で述べたように、兩觀點が同じ方向である(11) 'aは、49人中、「것같다」が43人、「듯하다」が32人、「모양이다」が18人、「가보다」が4人であった。それに對し、兩觀點の方向が同じでない場合が含まれている(11) 'bは49人中、「것같다」が25人、「듯하다」が21人、「모양이다」が33人、「가보다」が11人であった。また、兩觀點が同じ方向である(12) 'aは、49人中、「것같다」が31人「듯하다」が16人、「모양이다」が36人、「가보다」が12人であった。それに對し、兩觀點が方向が同じでない場合が含まれている(12) 'bは49人中、「것같다」が37人、「듯하다」が22人、「모양이다」が25人、「가보다」が12人であった。(11) ' (12) ' から分かるように、兩觀點が同じ方向である場合(a)は、それぞれ推量判断形式の選擇に差が見られるが、兩觀點が同じでない場合が含まれている場合(b)のそれぞれ推量判断形式の差は(a)ほどではないことが確認できる。これは、日本語の「ようだ」「らしい」と同様に、兩觀點が同じ方向である場合には、その相乗効果で二つの觀點の意味特徴が明らかに現れ、その意味特徴に合った推量判断形式は用いられやすいのに對し、合わない推量判断形式は用いられにくいからである。その結果、それぞれ推量判断形式の選擇の差が著しくなったと思われる。また、兩觀點が同じでない場合が含まれている場合(b)は、それぞれの推量判断形式の差がそれほど見られなかったが、それは兩觀點の意味特徴が互いに妨げになったからである。

以上、「判断根據の質の違い」と「命題に對する話者の態度」を含んでいると思われる例を提示し、その許容度について述べたが、兩觀點を含んでいると思われるアンケートの全ての例文の許容度の平均をまとめると<表2>のようになる。

9) <表2><表3>の數字は、分類別の例文のそれぞれ判断形式の許容度を足し、その分類別の例文の數で割り、平均値を出した結果である。

<表2> 兩觀點を含んでいる分類別の許容度

<凡例(全回答者50人)> 40人以上—◎ 20~39人—○ 7~19人—△ 6人以下—×

兩觀點を 含んだ分類		兩言語		日本語				韓國語			
		ようだ	らしい	것같다	듯하다	모양이다	가보다				
直・主	近>遠	◎(40人 ¹⁰⁾)	△(17)	○(36)	○(34)	△(12)	×(4)				
	近/遠	◎(46)	△(9)	○(37)	○(22)	△(18)	△(8)				
直・客	近>遠	◎(49)	△(14)	◎(44)	○(27)	△(10)	×(2)				
	近/遠	○(37)	○(25)	○(35)	○(20)	○(26)	△(8)				
間・伝聞弱	近>遠	◎(40)	○(23)	○(27)	○(29)	○(25)	×(2)				
	近/遠	○(37)	○(31)	○(37)	○(24)	○(18)	△(15)				
間・伝聞強	近>遠	○(24)	○(38)	○(34)	○(20)	○(24)	△(7)				
	近/遠	△(15)	◎(42)	○(32)	△(10)	○(25)	△(13)				

<表3> 「判断根據の質の違い」の観点からの分析結果

判断根據		兩言語		日本語				韓國語			
		ようだ	らしい	것같다	듯하다	모양이다	가보다				
直接	主觀的	◎(42人)	△(12)	○(36)	○(27)	△(17)	×(6)				
	客觀的	◎(40)	○(24)	○(37)	○(22)	○(22)	×(6)				
間接	伝聞弱	○(38)	○(22)	○(34)	○(23)	○(25)	△(8)				
	伝聞強	△(18)	◎(40)	○(33)	△(18)	○(26)	△(9)				

<表2>を分析してみよう。まず、日本語の場合から見てみよう。<表2>をみると全体的に判断根據が直接的な場合には「ようだ」の許容度が高く、間接的な場合には「らしい」の許容度が高い。また、話者が命題に對し「近>遠」の態度を取る場合には「ようだ」がよく用いられる。それに對し、「近>遠」に比べ、「近/遠」の場合に「らしい」がよく用いられることから、話者が命題に對し「遠」の態度を取る場合に「らしい」がよく用いられると言える。<表2>をさらに詳しくみると、判断根據が直接的かつ主觀的な場合には、話者の命題に對する態度にあまり関係なく、「ようだ」の許容度が高い。これは判断根據が主觀的な場合の殆どは話者の感じに基づく判断であり、命題は話者に關するものが多く、この場合、話者は命題に對し「近」の態度を取りやすくなるからである。意図的に自分のことを他人のことにように語ることもあるが、そういう場合はそれほど多くないと思われるからである。また、「直(主・客)・近>遠」の場合に「ようだ」の許容度が非常に高い。判断根據が直接的かつ主觀的な場合に比べ、判断根據が直接的かつ客

10) アンケート調査結果の平均人数である。

観的な場合には、話者の観察などに基づく推量判断が多いので、主観的な場合より‘遠’の態度を取る場合が多くなる。そのため、判断根拠が主観的な場合に比べると、「ようだ」の許容度はやや下がり、逆に「らしい」はやや上がる。また、判断根拠が間接的である場合には全体的に「らしい」の許容度が高く、さらに「間・伝聞強・近/遠」の時に「らしい」の許容度が一番高い。これは2つの観点が同じ方向で、その相乗効果で「らしい」の許容度が上がり、「ようだ」の許容度が下がったからである。それに對し、「間・伝聞強・近>遠」の場合つまり、二つの観点の方向が同じでない場合には、互いの意味特徴が妨げになり、その結果、「間・伝聞強・近/遠」の場合に比べ、「らしい」の許容度はやや下がり、逆に「ようだ」の許容度はやや上がる。判断根拠が伝聞の意味が強い間接的な場合に比べ、伝聞の意味が弱い間接的な場合には「ようだ」と「らしい」の許容度の差はそれほど見られなかった。これは伝聞的な意味が薄くなり、話者の判断の比重が大きくなったからである。この場合には、判断根拠が間接的であっても、話者は判断根拠を自分の解釈を入れた根拠として捉えている。そのため、伝聞の意味が強い場合に比べ、「らしい」の許容度が下がり、「ようだ」の許容度が上がったと思われる。

以上をまとめると、以下のようになる。判断根拠が直接的かつ主観的である場合また、判断根拠が伝聞の意味が強い間接的な場合には、命題に對する話者の態度の影響をあまり受けず、直接的な場合には「ようだ」が、間接的な場合には「らしい」が主に用いられる。しかし、判断根拠が客観的である場合と伝聞の意味が弱い間接的な場合には、命題に對する話者の態度によって、「ようだ」と「らしい」の許容度は変わる。判断根拠が直接的かつ客観的であっても、話者が命題に對し‘遠’の態度を取る場合は‘近’の態度を取る場合に比べ、「ようだ」の許容度は下がり、「らしい」の許容度は上がる。また、伝聞の意味の弱い間接的な場合には、話者の判断が判断根拠に入っているため、伝聞の意味が強い間接的な場合に比べ、「ようだ」の許容度は上がるが、間接的根拠という判断根拠の影響も受けるため「らしい」の許容度も高い。

次に韓国語の推量判断形式の選擇傾向を見てみよう。「것같다」は全体的に判断根拠や命題に對する話者の態度にあまり影響を受けずよく用いられることが確認できる。「듯하다」は判断根拠が直接的な場合と話者が命題に對し‘近>遠’の態度を取る場合に主に用いられる。「듯하다」とは逆に「모양이다」と「가보다」は判断根拠が間接的な場合と話者が命題に對し‘近>遠’の場合より‘近/遠’の態度を取る場合によく用いられることから、‘遠’の態度を取る場合によく用いられると思われる。〈表2〉から韓国語の場合も、日本語の場合ほどその差が明らかではないが、兩観点が同じ方向である場合は、同じ方向でない場合に比べ、それぞれ推量判断形式の許容度の差が大きいことが確認できる。特に、「直・客・近>遠」と「間・伝聞強・近/遠」の場合に、「듯하다」「모양이다」「가보다」の許容度に差が大きく見られた。

以上、〈疑問1〉の分析で、韓日兩言語とも二つの観点が同じ方向である場合は、そうでない場合に比べ、それぞれ推量判断形式の選擇の差が明らかであることを確認した。これは、同じ方向の場合、それぞれ推量判断形式の意味特徴が明らかになるからである。つまり、アン

ケートの例文の意味特徴と推量判断形式の意味特徴が合う場合には、許容度が大幅に上がり、例文の意味特徴と推量判断形式の意味特徴が真逆の場合には許容度が大幅に下がる。例えば、「直・主・近>遠」の場合に「ようだ」の許容度が一番高く、「らしい」の許容度が一番低いのは、「ようだ」の意味特徴つまり、判断根拠が直接的また、話者が命題に対し「近」の態度を取るという意味特徴と例文の意味特徴が合ったからであり、その結果、「ようだ」の許容度が大幅に上がったと思われる。それに對し、「らしい」の意味特徴つまり、判断根拠が間接的また、話者が命題に対し「遠」の態度を取るという意味特徴と真逆であるため、「らしい」の許容度は大幅に下がったと思われる。言い換えれば、「ようだ」は判断根拠が直接的な場合と話者が命題に対し「近」の態度を取る場合によく用いられる。逆に、「らしい」は判断根拠が間接的な場合と話者が命題に対し「遠」の態度を取る場合によく用いられる。韓国語も日本語の場合と同様のことが言える。例えば、<表2>から「直・客・近>遠」の場合、「듯하다」の許容度が高く、「모양이다」「가보다」の許容度が低いことが分かる。これは「듯하다」が判断根拠が直接的な場合と命題に対し「近」の態度を取る場合に用いられるという意味特徴と例文の「直・客・近>遠」の意味特徴が合っているからであり、逆に「모양이다」「가보다」の許容度が低いのはそういう意味特徴と合わないからである。「間・伝聞強・近/遠」の場合に「모양이다」「가보다」の許容度が一番高いことから分かるように、「모양이다」「가보다」は判断根拠が間接的な場合と命題に対し「遠」の態度を取る場合によく用いられるといえる。そのため、「直・客・近>遠」の場合には許容度が低くなったと思われる。

また、二つの観点が同じ方向でない場合には二つの観点の意味特徴がお互い妨げになり、同じ方向の場合に比べ、推量判断形式の選擇の差は鈍くなる。これは<表2>の「直・客・近>遠」と「直・客・近/遠」または、「間・伝聞強・近/遠」と「間・伝聞強・近>遠」のそれぞれ推量判断形式の許容度の差を比較してみれば明らかである。以上の結果から、二つの観点は、完全に異なる意味特徴ではなく、お互い影響し合う関係であるといえる。

4. <疑問2>の検証と考察

4.1 検証方法

<疑問2> は本稿で取り上げている兩観点が同じ方向でない場合、どちらの観点が推量判断形式の選擇により影響を与えるのかについてである。また、その際、韓日兩言語において優先順位に違いがあるのかどうかについての疑問である。そこで本稿では、兩観点が同じでない場合の韓日推量判断形式の選擇傾向の差を探る。その結果、兩言語のそれぞれの推量判断形式

が観点Aによって(本稿では「判断根據の質の違い」か「命題に対する話者の態度」かの片方)、推量判断形式の選擇の差がより著しく現れた場合、観点Aは、その言語の推量判断形式の選擇により影響を与えているといえる。つまり、その言語の推量判断形式の選擇に観点Aが観点Bに優先されるといえる。

4.2 分析及び考察

4章では、<表2>の「兩観点を含んでいる分類別の許容度」と<表3>の「判断根據の質の違い」の観点からの分析結果を比較しながら分析を行う。

- (13) 齋場の側の窓に、白いハンケチでしきりと涙を拭いている十七・八の少女を私は見た。拭いても拭いても涙が溢れてくるようだ/らしい。(再掲(6))
- (14) 「でも、なんか収穫はあったのかね」「うん、殺された男との所へは、時に妙な女がやってきたようだ/らしい。女給風の女で、泊まっていったというが、これも身元がさっぱり分からない。」

(13)は「直・客・近/遠」の例であり、兩観点が同じでないと判断される場合が含まれている例である。また(14)は「間・伝聞強・近>遠」の例であり、兩観点が同じでないと判断されやすい場合の例である。既に上述したように、「ようだ」は判断根據が直接的である場合と話者が命題に對し「近」の態度を取りやすい場合によく用いられる。(13)の判断根據は直接的であるが、話者と少女の関係によって話者は命題に對し「近」の態度とも「遠」の態度とも取れる場合の例であり、(13)は50人中、「ようだ」が40人で、「らしい」が22人であった。<表2>の「直・客・近>遠」に比べ、「ようだ」と「らしい」の許容度の差は縮まったが、「ようだ」の許容度が高い。このことから、「ようだ」は「判断根據の質の違い」によってより優先的に選擇されると思われる。また、既に上述したように、「らしい」は判断根據が伝聞の意味が強い間接的な場合と話者が命題に對し「遠」の態度を取る場合によく用いられる。しかし、(14)は「～という」から分かるように、判断根據は伝聞の意味が強い間接的であるが、命題は刑事同士の事件に関する事態であるため、話者は命題に對し、職業柄上「近」の態度を取りやすいと思われる。そのため、二つの観点の方向は同じでない。(14)の推量判断形式の選擇を見ると49人中、「ようだ」を選らんだ人が18人で、「らしい」を選んだ人は43人であった。兩観点が同じでない(14)の場合は、<表2>の「間・伝聞強・近/遠」つまり、同じ方向が含まれている場合とそれほど変わらず、「らしい」の方がよく用いられることが確認できる。このことから、「らしい」は「判断根據の質の違い」によって優先的に選擇されると思われる。つまり、日本語の「ようだ」と「らしい」は「判断根據の質の違い」によって優先的に選擇されるといえる。

次は、韓国語の推量判断形式を見てみよう。(15)(16)は兩観点の方向が同じでない場合の例である。

- (15) “요코하마에서 짚렸을 때의 상황도 그로부터 지금까지의 경력도 그 여자가 말하고 있는 그대로야. 뭐, 몇 명이나 애인은 있었던 것같네/듯하네/모양이네/가보네.” 경감은 이마에 세로로 주름을 잡으며 말했다.
- (16) 경감은 이마에 세로로 주름을 잡으며 말했다.“그렇다면 이번에도 운 좋게 경찰을 한발 앞설 수 있었던 것같은데/듯한데/모양인데/가보네.”

(15)は「~그 여자가 말하고 있는 그대로야」から分かるように、判断根拠は伝聞の意味が強い間接的であるが、(15)は刑事と警部との會話であり、話者は事件の内容である命題に對し職業柄上、‘近’の態度を取りやすいと思われる。「間・伝聞強・近>遠」である(15)は、48人中、「것같다」が36人、「듯하다」が20人、「모양이다」が26人、「가보다」が4人であった。また、(16)は他者からの話を聞いて推量判断しているが、「그렇다면」から分かるように、話者は判断根拠を自分なりに解釋し、推量判断している。つまり、判断根拠は伝聞の意味が弱い間接的であるが、話者は警部という職業柄上、命題に對し‘近’の態度を取りやすいと思われる。(16)は47人中、「것같다」が31人、「듯하다」が23人、「모양이다」が30人、「가보다」が1人であった。(15)(16)は判断根拠が間接的で話者が命題に對し‘近’の態度を取る場合の例であるが、「것같다」>「모양이다」>「듯하다」>「가보다」の順番で許容度が高い。(15)(16)の場合、話者が命題に對し‘近>遠’の態度を取るにも関わらず「모양이다」の許容度が高いことから、「모양이다」の選擇は「判断根拠の質の違い」によって優先的に選擇されると思われる。また、判断根拠が間接的であるにも関わらず「가보다」の許容度が極めて低いことから、「가보다」は「命題に對する話者の態度」によってより優先的に選擇されると思われる。また、判断根拠が間接的にも関わらず「듯하다」の許容度が高いことから、「듯하다」は「命題に對する話者の態度」によってより優先的に選擇される傾向があると思われる。

次は<表2>と<表3>を比較しながら、韓日兩言語全体の傾向を見てみよう。<表2>と<表3>を比較してみると、韓日兩言語形式とも判断根拠と命題に對する話者の態度によってその許容度に差が見られる。「ようだ」は判断根拠が直接的な場合と話者が命題對し‘近’の態度を取る時に一番許容度が高いことから「ようだ」は「直接・近」の場合に用いられるといえる。それに對し、「らしい」は判断根拠が伝聞の意味が強い間接的な場合と話者が命題に對し‘遠’の態度を取る場合に一番許容度が高いことから「らしい」は「間・伝聞強・遠」の場合に用いられるといえる。しかし、「ようだ」と「らしい」は「命題に對する話者の態度」の影響も受けるが、「判断根拠の質の違い」の観点によってより優先的に選擇されることが確認できる。<表3>をみると、「直・主」→「直・客」→「間・伝聞弱」→「間・伝聞強」の順に判断根拠の間接化が進んで

いと考えた場合、「ようだ」は判断根據が間接化すればするほど許容度が下がり、「らしい」は上がる。日本語は、「命題に對する話者の態度」より「判断根據の質の違い」によって推量判断形式が優先的に選擇されるのに對し、韓國語は日本語に比べその差が日本語ほど明らかでない場合もあるが、それぞれの推量判断形式で優先順位の傾向が見られる。まず、「것같다」は判断根據が直接的で「近」の態度を取る場合にやや許容度が高いが、兩觀點にあまり影響を受けず幅廣く用いられることが確認できる。「듯하다」は判断根據が直接的な場合と話者が命題に對し「近」の態度を取る場合によく用いられ、兩觀點の影響を受けるが、「判断根據の質の違い」より「命題に對する話者の態度」でやや許容度の差が大きいことから、「命題に對する話者の態度」によってより優先的に選擇される傾向があると思われる。それに對し、「모양이다」は判断根據が間接的な場合と話者が命題に對し「遠」の態度を取る場合によく用いられ、兩觀點の影響を受けるとは思われるが、「判断根據の質の違い」でやや許容度の差が大きいことから、「모양이다」は「判断根據の質の違い」によってより優先的に選擇される傾向があると思われる。「가보다」は判断根據が間接的な場合と話者が命題に對し「遠」の態度を取る場合によく用いられ、兩觀點の影響を受けるとは思われるが、「近」の態度を取る時に殆ど用いられず、「遠」の時に許容度が上がることから「가보다」は「命題に對する話者の態度」によってより優先的に選擇されると思われる。

5. まとめ及び今後の課題

以上、「判断根據の質の違い」と「命題に對する話者の態度」の二つの觀點を含んだアンケートの結果から、韓日兩言語の推量判断形式の選擇の傾向を分析した。本稿では、大勢の人にアンケートを実施することによって、二つの觀點による推量判断形式の選擇傾向を客觀的に見せることができた。また、本稿では先行研究でそれぞれ述べられてきた二つの觀點を同時に見ていくことによって、先行研究では明らかにされなかった二つの疑問について考察することができた。本稿では、二つの觀點の方向が同じである場合とそうでない場合、許容度に差があるのかについて(<疑問1>) 考察を行い、また二つの觀點が同じ方向でない場合、どちらの觀點によって優先的に推量判断形式が用いられるのか、また優先順位があるとしたら韓日兩言語に差はあるのか(<疑問2>)について考察を行った。その結果、<疑問1>については、兩觀點の方向が同じである場合は、そうでない場合に比べ、推量判断形式の選擇の差が大きくなることを確認した。また、これは二つの觀點の相乗効果が起こったからであると述べた。例文の意味特徴と推量判断形式の意味特徴が合う場合には許容度が大幅に上がり、例文の意味特徴と推量判断形式の意味特徴が合わない場合、特に眞逆の場合には許容度が大幅に下がる。また、「ようだ」は「直(主・客)・近>遠」の場合に許容度が高く、「間・伝聞強・近/遠」の場合に許容度が一番低いことから、「ようだ」は、判断根據が直接的な場合と話者が命題に對し「近」の

態度を取りやすい場合に用いられると述べた。それに對し、「らしい」は「間・伝聞強・近/遠」の場合に一番許容度が高く、「直(主・客)・近>遠」の場合に一番許容度が低いことから、「らしい」は判断根據が間接的な場合と話者が命題に對し「遠」の態度を取りやすい時によく用いられると述べた。また、本稿では「ようだ」が「直(主・客)・近>遠」の場合に、「らしい」が「間・伝聞強・近/遠」の場合に一番許容度が高いのは、二つの觀點の相乗効果によるものであると述べた。韓國語においては、「듯하다」は判断根據が直接的な場合と話者が命題に對し「近」の態度を取りやすい場合によく用いられるのに對し、「모양이다」「가보다」は判断根據が間接的な場合と話者が命題に對し「遠」の態度を取りやすい場合によく用いられると述べた。また、アンケートの結果から、「것 같다」は二つの觀點にあまり影響を受けずよく用いられると述べた。さらに、韓國語の場合も日本語の場合と同様、例文の意味特徴と推量判断形式の意味特徴が合う場合には、その相乗効果で許容度が一番高く、眞逆の場合の許容度は一番低いと述べた。また、本稿では、韓日兩言語とも二つの觀點が同じ方向でない場合は同じ方向の場合に比べ、推量判断形式別の許容度の差が鈍くなると述べ、これは二つの觀點の意味特徴がお互いの妨げになったからであると述べた。また、本稿では分析結果から二つの觀點はお互い影響し合う關係であることも指摘した。

<疑問2>については、日本語の場合は「判断根據の質の違い」の觀點によって「ようだ」と「らしい」の選擇の差が大きいことから、「ようだ」と「らしい」は「判断根據の質の違い」によってより優先的に選擇されると述べた。それに對し、韓國語の場合は、日本語ほど二つの觀點の優先順位が明らかでない場合もあるが、優先順位の傾向は確認することができた。「듯하다」「가보다」は「命題に對する話者の態度」によって選擇傾向がやや大きいことから「命題に對する話者の態度」によってより優先的に選擇される傾向があると述べた。それに對し、「모양이다」は「判断根據の質の違い」によって選擇傾向がやや大きいことから「判断根據の質の違い」によってより優先的に選擇される傾向があると述べた。また、「것 같다」は二つの觀點にあまり影響されず、よく用いられると述べた。

本稿では、アンケートの分析結果から、先行研究で述べられなかった二つの疑問について考察を行ったが、そのような分析結果をもたらした理由については述べていない。今後、それぞれ推量判断形式の構成要素の語の意味からその理由について考えたい。

【參考文獻】

- 高銀振(1998) 「『ようだ』『らしい』와 韓國語의 對應 關係—文末推量表現의 狀況論的接近提示를 中心으로—」『일본학논집』8집, 경희대학교원 일어일문학과, pp31-46
- 金東郁(1998) 「眞偽判斷モダリティの日韓對照研究」學位論文(筑波大學), pp254-278
- 尙美淑(2001) 「日韓兩言語의 推量表現의 對應研究—요우다·라시어—」『大韓日語日文學會/日語日文學』제 15집, pp129-141
- 寺村秀夫(1984) 『日本語のシンタクスと意味第II 卷』くろしお出版, pp242-254
- 早津恵美子(1988) 「『らしい』と『ようだ』」『日本語學』7-4, 明治書院, pp46-61
- 益岡隆志(1991) 『モダリティの文法』くろしお出版, pp119-121

【出典一覽(アンケート例文の出典)】

『日韓對譯文庫』

- 赤川次郎 作 『予約席』 / 다락원 출판부 譯注, 다락원
芥川龍之介 作 『羅生門』 / 다락원 출판부 譯注, 다락원
阿刀田高 作 『待っている男』 / 다락원 출판부 譯注, 다락원
大岡昇平(外) 作 『動物』 / 김종덕 譯注, 다락원
川端康成 作 『伊豆の踊子』 / 다락원 출판부 譯注, 다락원
曾野綾子 作 『夫婦の情景』 / 다락원 출판부 譯注, 다락원
高木彬光(外) 作 『失われた過去』 / 다락원 출판부 譯注, 다락원
西本鶏介 編 『日本漫談』 / 다락원 출판부 譯注, 다락원
星新一 作 『重要な部分』 / 다락원 출판부 譯注, 다락원
武者小路實篤 作 『友情』 / 장남호 역자, 시사일본어사

要 旨

本稿は「ようだ」「らしい」と「것같다」「듯하다」「모양이다」「가보다」の推量判断形式を研究対象としている。上で挙げている推量判断形式については主に、「判断根拠の質の違い」と「命題に対する話者の態度」のそれぞれの観点から分析が行われてきた。そこで本稿では、「判断根拠の質の違い」と「命題に対する話者の態度」の二つの観点を含んでいるアンケートを実施し、先行研究では述べられなかった二つの観念の関連性と韓日両言語における二つの観念の優先順位について考察した。アンケートの分析結果、韓日両言語において、両観念が同じ方向である場合は、相乗効果が起こり、推量判断形式別の許容度の差が著しくなることを確認した。それに對し、兩観念が同じ方向でない場合は、お互いの意味特徴が妨げになり、推量判断形式の許容度の差は兩観念が同じ方向の場合に比べ鈍くなることも確認した。また、本稿では、二つの観念の優先順位について、「ようだ」と「らしい」は「判断根拠の質の違い」の観点によって優先的に選擇されると述べた。それに對し、韓國語の場合、「듯하다」と「가보다」は「命題に対する話者の態度」の観点によって優先的に選擇されるのに對し、「모양이다」は「判断根拠の質の違い」の観点によって優先的に選擇されると述べた。また、「것같다」については、二つの観念の影響をあまり受けずよく用いられると述べた。

キーワード：判断根拠の質の違い、命題に対する話者の態度、兩観念が同じ方向である場合、兩観念が同じ方向でない場合、相乗効果、妨げ、優先順位、意味特徴

투 고 : 2006. 2. 28
1차 심사 : 2006. 3. 11
2차 심사 : 2006. 4. 1

住 所 : (305-0005) 茨城県つくば市天久保4-7-24カルムブリアント307
電 話 : (+81) 80-5029-5461
e-mail : mahou@hanmail.net